

# 琉球銀行の収益の特徴

## 損益の状況

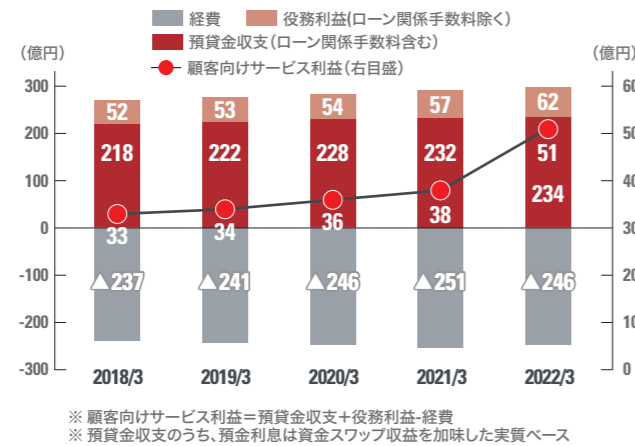
当行の損益は、主に顧客向けサービス利益と市場部門における運用損益で構成されています。

顧客向けサービス利益は、預貸金収支（ローン関係手数料含む）および役員利益（ローン関係手数料除く）から経費を差し引いたものです。

2022年3月期決算では、役員利益が増加した一方経費が減少したことで、顧客向けサービス利益は増加しました。

また、住宅ローン手数料、預かり資産手数料およびカードビジネス手数料が役員利益の増加を牽引しました。

### 顧客向けサービス利益の推移

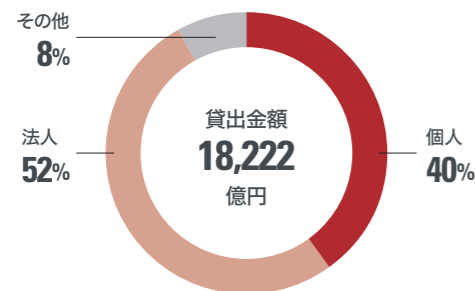


## 預貸金収支の状況

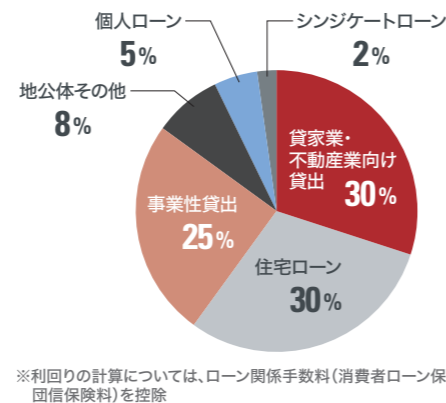
当行の貸出金は2022年3月末時点で約18,222億円となりました。当行は個人および法人に多く貸し出しており、貸出金残高では法人が5割強、個人が4割弱を占めています。貸出金用途別残高では、貸家業・不動産向け貸し出しが30%、住宅ローンが30%、事業性貸出が25%を占めています。

2022年3月期は、個人ローンや住宅ローン等は堅調に推移していますが、事業先の資金需要低下等により事業性貸出の残高は減少しました。

### 貸出金貸先別残高割合



### 貸出金用途別残高割合



当行の預金残高は2022年3月末時点で約26,095億円であり、個人の割合が6割以上となっています。

新型コロナウイルス感染症に関連する補助金や資金繰り

支援等の歩留まりが主な要因で、預金残高は増加傾向にあります。なお、マイナス金利に伴って預金金利が低下したことにより、預金利息は引き続き減少しています。

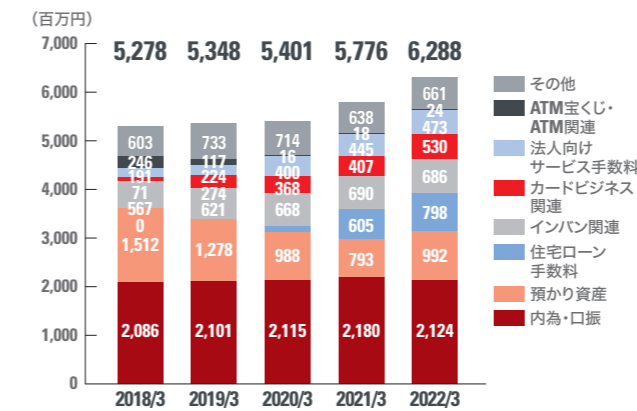
## 役員利益の状況

役員利益は大きく8つのサービスに分かれており、内国為替・口座振替の他、預かり資産、住宅ローン手数料、インターネットバンキング関連、カードビジネス関連、法人向けサービス手数料等があります。

また、当行が近年強化しているサービスに関する利益の上昇が大きく、主に住宅ローン手数料、カードビジネス関連や預かり資産等の利益が増加しています。

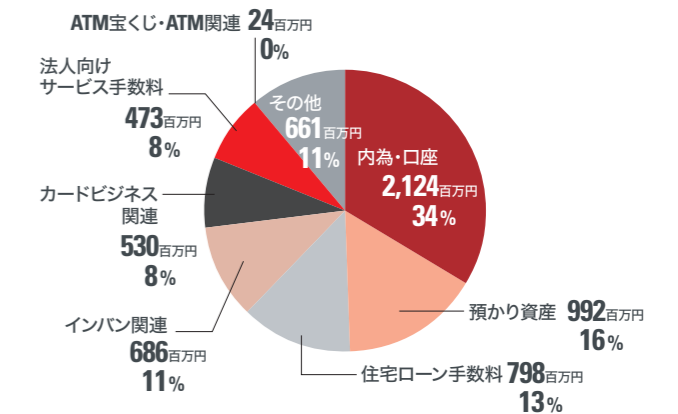
### 役員利益の推移と概要

(団信保険料、ローン関係手数料除く)



### 役員利益の割合

(団信保険料、ローン関係手数料を除く)



役員利益のうち、当行が販売や利益の増加を目指すべく特に強化しているサービスは次の4つです。

#### ①預かり資産

預かり資産の販売態勢の強化を目的として組成された「預かり資産推進チーム」を増員し、預かり資産の販売強化策を実施しています。「預かり資産推進チーム」の活動主体を営業支援からリテールフィールド担当者の育成支援とすることで、お客さまのライフステージに応じた最適な商品サービスを提供する人材の育成を進め、相続ビジネスなどの資産承継コンサルティングや資産運用コンサルティングを強化しています。

#### ②個人向けサービス

2017年度から個人向け資産承継サポートを推進しています。リスク診断、資産承継プランニング、遺言作成支援、遺言信託、遺産整理サポートおよび家族信託といったサービスを提供しています。

#### ③法人向けサービス

法人向けサービスは、ストラクチャードファイナンス、M&A、ビジネスマッチング、事業承継および地方創生等の5つのサービスがあります。法人向け各種ソリューションに関する提案力を強化し、グループ体となった複合的な提案力の強化を進めています。人材育成を通じて、経営改善支援態勢および伴走型金融仲介の強化を図っています。

#### ④カードビジネス関連

カードビジネス関連では、デビットカードやクレジットカードに代表されるキャッシュレス決済サービスを提供しています。多様な地域および海外の決済ニーズに応えることで、これからもカードビジネス関連サービスの拡大を図っていきます。